地域に伝わる
民俗調査事業

金沢の奴行列

おいおいーおやじどのー其の金こちらへ貸しておくれんか 言えば与市兵衛はびっくり仰天しーいやいやお金は持ちません　娘に貰うた用意の握り飯ー さよならお先へ参じましょう イヤイヤーしぶといおやじどの　抜き放す　何の苦もなくー ただひとえぐり　サード　金と命のあいない別れのーニつ玉ー　ドン
（忠臣蔵五段目）（五郎島のこども奴の手踊り）

音頭取り「セーセーヨー、オヤセー」
奴「アーヨイトコサーノサー、エーエ、コレワイサノサ」
（粟崎の奴行列）

由来・伝承

金沢市内の奴行列は、加賀藩主が沿岸に出かけた際に伴った奴が由来とされている。

また、江戸時代の「参勤交代」では、大名は1年ごとに国元と江戸とを行き来し、加賀藩の場合は2,000人から4,000人が参加したともいわれ、12泊13日かけて移動した。参勤交代の様子を伝える「加賀藩大名行列図屏風」には挟箱、台笠などが参加する姿が描かれている。大名行列は江戸時代の終りとともに行われなくなったが、奴の姿は各地の祭礼の大名行列や奴行列に見ることができる。

金沢の奴行列は、少なくとも明治20年には大野で行われていたことが確認されている。

加賀藩大名行列図屏風（石川県立歴史博物館所蔵）

所 作

単に道具を持って歩くだけでなく、いろいろな所作を行う。掛け声に続き、逆八の字を描くように摺り足気味に前進し、後ろ足の踵を思いっきり自分の尻に向けて蹴り上げる（粟崎）。

大将の扇を合図に練りを開始し、道具を受け渡す（大野）。

道具を持つ行列（全団体）と持たない手踊り（金石、五郎島）がある。

掛け声は、「せいせい、よーやせー」、「あーよいとこさのさ」、「あーこれわいさーのさ」などがある。

意 義

金沢の奴行列は基本とされる挟箱・毛槍・立傘・台笠だけでなく、薙刀を伴う。また大野・戸水では挟箱ではなく、御幣（金幣・銀幣）を持つ。

奴行列そのものに関する文書があまり残されていないが、少なくとも明治期には青年団が行う民俗芸能として定着し、その後、五郎島から金石や内灘町に伝わったように各地に伝承していったと考えられる。

祭礼において、奴行列は基本的には神輿行列に付随し、神主や神輿の先に立って回る先導役であるが、同時に現在に見られるような掛け声や、道具の受け渡しなどの勇壮さが金沢百万石まつりでも披露され、独自の発展を遂げ、地域での町づくりや生涯教育の一環に大きな意味を持つようになった。現在では市内における重要な民俗芸能となっており、将来にわたり、保存・継承していく必要がある。

きらめく城下のまち・金澤

金沢市 都市政策局 文化財保護課
〒920－8577　金沢市広坂1丁目1番1号
TEL076-220-2906　ＦＡＸ076-224-5046
E-mail :bunkazai@city.kanazawa.lg.jp
H24.3発行

金沢市の文化財と歴史遺産　検索　click!!

地域の奴行列

「地域に伝わる民俗調査事業」の概要

金沢には、古くから伝わる「まつり」や「風習」などが数多く残っています。

しかし、これらの「まつり」等は伝承していくことが困難になり、存続の危機にあるものも多いのが現状です。

そのため金沢市では、地域に伝わる「まつり」などを、民俗学的な見地から調査することにより、有効な継承方法や記録方法を検証し、新たな民俗文化財の指定へとつなげていくことを目的とした詳細調査を行っています。

今回、金沢市沿岸部で行われている、「奴行列」について調査を行いました。

掛け声や道具の受け渡しなどの勇壮さを求めて発展を遂げ、今に伝えられています。

※大浦、北間町については数年に一回のため、平成二十三年には披露されなかった。

粟崎

・毎年、粟崎八幡神社（粟ケ崎町ヘ49）の9月の秋季祭に悪魔払い・獅子舞等と共に神輿に供奉する（平成23年は9月11日（日））。
・音頭取り1人を先頭に、挟箱2本（4人）、毛槍2本（4人）、台笠（タコ）1本（2人）、傘1本（2人）、薙刀（なぎなた）1本（1人）の縦2列の隊形で計14人編成。
・顔を赤くする（音頭取りは白）。
・今もなお、勇壮に道具の投げ渡しを行っている。
・金沢百万石まつりに毎年参加している。

東蚊爪

・毎年、須岐神社（東蚊爪町ホ100甲）の秋祭りに、子供神輿、獅子舞と共に町内を練り歩く（例年9月23日（祝））。
・挟箱2本（4人）、大鳥毛1本（2人）、小鳥毛1本（2人）、立傘1本（2人）、台笠1本（2人）、薙刀1本（1人）の縦2列の隊形で計13人編成。
・顔は青を含む4色を使い、隈取り風で威厳のある化粧。
・先頭に立つ挟箱が音頭を取り、演技を行う。

戸水

・戸水八幡神社（戸水町1丁目245）の秋祭で披露する（不定期開催　平成23年は9月24日（土）　その前は平成14年）。
・親方（1人）、金幣1本（2人）、銀幣1本（2人）、大鳥毛1本（2人）、小鳥毛1本（2人）、中鳥毛1本（2本）、立傘1本（2人）、台笠1本（2人）、薙刀1本（2人）の計17人編成。
※中鳥毛は先に三叉の剣あり。
・親方だけが化粧をする。
・今もなお、勇壮に道具の投げ渡しを行っている。

大野

・毎年、大野日吉神社（大野町5丁目81番地）の夏祭りに参加する。奴、榊台・神輿、悪魔払い、曳山などが続く。
・奴は神輿行列に参加する（平成23年は7月24日（日））。
・構成は大将1人を先頭に、金幣1本（2人）、銀幣1本（2人）、熊毛1本（2人）、毛槍2本（4人）、三叉鉾1本（2人）、立傘1本（2人）、台笠1本（2人）、薙刀1本（1人）の縦2列の隊形で計18人編成。
・化粧はしない。
・明治20年には奴が存在しており、金沢市内でも最も古い奴の一つと考えられる。

近岡

・近岡神社（近岡町476）の大祭で、例年9月23日（祝）に神社にて祭礼が執り行われ、演舞する（5年に一度）。
・構成は親方、挟箱2本（4人）、毛槍2本（4人）、台笠1本（2人）、立傘1本（2人）、薙刀1本（1人）の計14人編成。
・この年は化粧をしなかったが、粟崎の影響で顔を赤く塗った年もある。

五郎島（子ども奴）

・毎年、五郎島八幡神社（粟ケ崎町タ1−17）の秋祭りの祭礼行事に獅子舞、悪魔払いなどとともに参加する（平成23年は9月11日（日））。
・構成は先頭1人、挟箱2本（4人）、毛槍2本（4人）、三剣2本（4人）、立傘1本（2人）、台笠1本（2人）、薙刀1本（2人）の縦2列の隊形で計19人編成。
・手踊りと道具を持つ行列の2種類行う。
・小学2年生から中学2年生までで構成される。
・化粧はしない。
・金沢百万石まつりに毎年参加している。

金石（子ども奴）

・毎年、大野湊神社（寺中町ハ163）の夏季大祭に、米上げ、悪魔払いなどと一緒に、神輿の渡御の行列を先導する形で参加する（平成23年は8月5日（金）～7日（日））。
・構成は幟旗、大奴を先頭に、流し旗1本（3人）、殿様、挟箱2本（4人）、小槍2本（4人）、大槍2本（4人）、毛槍2本（4人）、立傘1本（2人）、台傘1本（2人）、薙刀1本（2人）、幟旗の縦2列の隊形で計29人編成。
・手踊りと道具を持つ行列の2種類行う。
・御船町町会が実施する。
・小学1年生から中学3年生で構成される。
・化粧はしない。
・平成11年に復活し、以降継続出演している。

奴行列の道具

①挟箱
着物を入れる箱で江戸時代の武家の外出時にお供が担いだもの。中に古銭が入っており、音が鳴る。（写真は五郎島）

②毛槍
槍の鞘の部分が鳥や動物の毛などで装飾された槍。（写真は近岡）

③立傘・台笠
立傘は長柄の傘に袋をかけたもの。台笠は長い棒の先につけて袋をかけたかぶり笠。（写真は五郎島）

④金幣・銀幣
祭祀で用いられる幣帛の一種で、2本の紙垂を竹または木の幣串に挟んだもの。（写真は大野）

⑤薙刀
布袋をかけてある。（写真は東蚊爪）